

<研究論文>

## 諸外国における土器製作

—エスノアーケオロジーの最近の成果—

西 田 泰 民

### 1 エスノアーケオロジーについて

考古学において、特に先史時代を対象とする場合、解釈の手がかりとなったり、又その妥当性を支持するものとなるのが民族誌データである。その利用はかなり古くから行われており、19世紀代にすでに旧石器の解釈に民族例が用いられている。日本でも初期においては人類学者が先史考古学研究を進めていたため、民族誌の素養を持った研究者が少なくなかった。最近復刻された1942年刊の坪井良平の訳になる『未開民族の文化』は考古学研究者向けであった。しかしこれまでは民族誌のデータのうち該当するものを考古学の研究に利用するのが通常であった。これに対して、最近よく目にするようになったエスノアーケオロジーは単なる民族例からの類推を旨とする考古学ではない。この用語は日本語では民族考古学と訳されることが多いが、民族の考古学という意味にもとれるため、適切な訳語ではないという意見もあるのでここではあえて訳語を用いないことにする。

以下に手元の二冊の本からそれぞれその性格付けを行った部分を訳出する。

「考古学者たちは伝統的社會においてフィールド研究を行うようになってきた。それは考古学的解釈の疑問に答え、類推法を発展させたり、吟味するためであった。この種の研究がエスノアーケオロジーと呼ばれるものである。」J. ホッダー "Present Past"

「エスノアーケオロジーの研究では現代の社会文化的行動が考古学的視点から分析される。エスノアーケオロジストは民族学者によってはあまり探求されることのない行動と物質文化との関係をあとづけようとし、観察された行動の特徴が考古学において発見される遺構遺物にどのように反映されるかを確かめようとする。」C. クレイマー "Ethnoarchaeology"

ホッダーのいう伝統的社會とは非産業化社會と読みかえてもよいかも知れない。上記から分かるように民族学者は基本的に現在進行中の社会的、文化的事象を対象としており、行動そのものを記録しても行動の跡にはあまり興味を持たない。ところが考古学者には行動の後に残されたもの、捨てられたものが重要なのである。ここから眞の意味でのエスノアーケオロジーの研究が始まられる。これらの考え方方が発展してきた背景にはそれぞれの地域に特有な事情があり、アメリカにおいては以前からインディアンに関する民族誌と考古学が密接な関係を持ち、その中から1970年前後にニューアーケオロジーも登場したようである。一方、ヨーロッパでは旧植民地であるアフリカをフィールドとした研究が行われている。

日本においては渡辺仁によるアイヌの民族調査や北方狩猟民を対象とした研究が代表的といえ

るであろう。日本の考古学の専門家による土器作りの調査も東南アジアなど各地で行われてはいるが、製作技法のみに焦点をあてたものが多く、内容・方法共に残念ながら不十分で、必ずしもエスノアーケオロジーならではの成果を上げているとはいえない状況である。

土器は考古学の中心的研究対象の一つであるためにその民族誌にも高い関心が寄せられており、一分野と見なしてEthnoceramics という言葉さえ時折見られる。次にテーマ別に土器のエスノアーケオロジー的研究の成果を示す。

## 2 土器製作と陶工

### ・製作技術の習得

タンザニアのキシでの土器作り技術習得開始の年齢と習得にかかった年数のアンケートを表1に示した。概ね物心がついてから数年かかると習得するような傾向がみてとれる。女性が土器製作を担当する場合は嫁入り前までに習得するのが一般的のようであるが、例外的には嫁入り先で主として土器製作を習うという地域もある。

図1はアマゾンのシビボ・コニボの土器文様で「人の陶」が作ったものである。基本的構造の上にバリエーションを加えていることが分かる。また図2は同じシビボ・コニボの一つの家系の曾祖母から曾孫まで4代にわたる陶工の手によって同時期に作られた製品である。盛期にある陶工と老年者、年少者の製品に大分違いがあることが一目瞭然であり、年齢の差が見られる。女性陶工の成熟期は子育てが終わって余裕の出来た頃であり、どうしても経験豊富な年長者の方が優

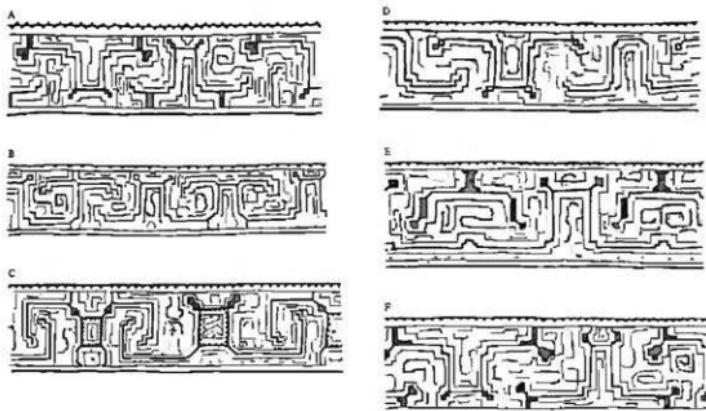


図1 1人の陶工が作る土器文様のバリエーション

れた腕前を見せることになる。若年者の方が焼成時の土器の破損率が高いというデータもある。ただし年をとつて眼が不自由になると、もちろん細かな文様をおうことが困難になり図のように簡素化した文様を描くようになるらしい。一般に大型の土器の製作にはかなりの技術が必要であり、製作可能な陶工がほんの数人に限られることがある。表2は表1と同じキシでのアンケートであり、陶工一人一人に製作可能な器種と製作したいと思う器種を聞いた結果である。約50人の陶工がいながら製作できる者が1人以下という器種があることに驚かされる。

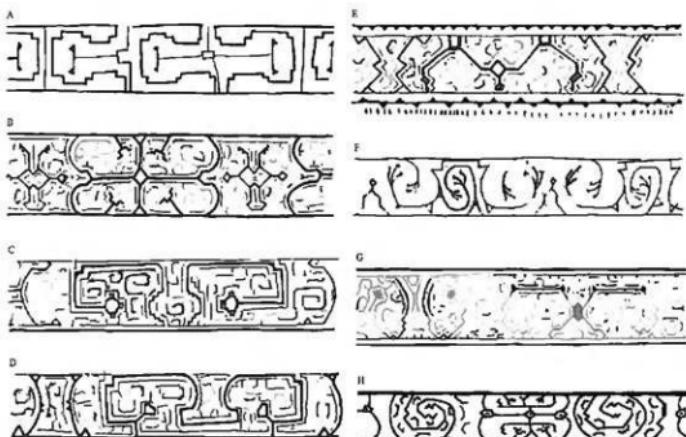


図2 年代差のある陶工の作品

#### ・陶工によるスタイルの認識

アメリカインディアンの土器製作の古典的研究であるバンツウェルの著作には陶工たちが採集した古い土器片を参考しながらも常に新しい文様をつくりだそうとしているようですが書かれている。一方レイズラップはスタイルの習得は伝統の保持のためではなく新しいスタイルを生み出すために行われるという注目すべき指摘をしている。

多くの場合、陶工は他人と自分の製品は区別できるようである。フィリピンで調査を行ったロングエーカーは製作後半年以上経った土器を陶工達に見せ、製作者を当てさせる実験を行っているが、すべてを言い当てるということである。ただしその基準は一定せず、陶工によって頬部の形態を根拠としたり、器面調整を判断基準としたりする者がいたという (Longacre 1981)。

図3は心理学の分野で行われた実験の一部である (Kempton 1981)。陶工や一般の人に少し形を変化させた土器の絵を見せ、問われた器形を表す言葉がどの絵に当てはまるか

表 1

土器製作技術習得開始年齢		習得に要した年月	
年齢	人數	年数	人數
2	1	0	2
4	2	1	2
5	3	2	4
5／6	2	3	2
6	2	4	10
7	5	5	10
7／8	12	6	10
8	2	7	5
8／9	1	8	1
9	3	10	2
9／10	3	13	1
10	4		
11／20	7		
20／30	2		
30／40	1		
計	50	計	50

表 2

器種	製作可能人數	製作を好む人數
Tukalango	49	49
Ndeko sya Mesi	21	35
Fifuna	20	29
Masyala	13	13
Vikalango	10	34
Makalango	10	13
'Tea Assemblage'	8	
Fijoli	7	23
Bamsilo	5	18
Vingumbila	5	12
Ndelele/Nyanganya	5	16
Lumenyu Iwa Kuumbila	2	3
Mikalango	2	—
Ngonga/Mbale	1	—
Lumenyu Iwa Walwa	1	—
Mikalango	—	2
Ngumbe	1	2
Mafuniko	—	11

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
D	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
E	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
F	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
G	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
H	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Sheet 1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
D	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
E	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
F	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
G	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
H	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Sheet 2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
D	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
E	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					
F	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
G	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
H	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Sheet 3

図3 単語の示す器種の範囲のアンケート

を調べたものである。陶工でさえ異なった日に同じ質問を行うと、一つの言葉からイメージされる器形の範囲が変化することがわかる。名称の上では考古学者が分類する以上に細かく土器を弁別する所もあれば、いたって大様な場合もある。

・陶工集団のあり方

アフリカでは女性陶工が、男性である鍛冶屋と一つの階層を形成している例がいくつかある。ものを変化させて新しいものを作るという能力を持つ共通点から集落の他の住民から恐れられ隔離されているらしい。また一説には混和材として動物の糞を扱うために敬遠されるとも言われる。これらの地域では陶工と鍛冶屋は婚姻集団としても独自のものを形成する。

### 3 土器の流通・消費・廃棄

#### ・市場と土器の値段

オセアニアでは交易のための土器作りが多くの地域で認められる。これは資源に乏しい島嶼部で特産品を作り、必要物資を得る形態の交易が発達した結果とみられる。一般に土器は自給自足ではなく、交易の対象となっているのが普通である。スーザンの報告例では土器製作を行う部族であっても市街地で使われる土器の7割近くが購入したものであるという。またいくつかの集落が土器製作を独占し、その集落の出身者が稼ぎ先で土器を作ることを禁止している例もある。

土器は物々交換の場合、その土器一杯分の物資と交換されるのが基本であるらしい。すなわち土器の大きさが値段の基準となっていることが多い。あらゆるものと交換されていて、例えば、タンザニアではカッサバ、米、豆類、穀類類、バナナといった食物が土器と交換される。そのほか衣類、塩、イヤリングなども交換可能である。

民族例をみてみると貨幣経済の行われていない地域でも市があり、活発な経済活動がありその中で土器の流通があることがわかる。縄文土器や弥生土器の場合でもそれらが流通した市場があつても決しておかしくないように思えてならない。

#### ・土器の使用と廃棄

煮炊きに使われる土器は大抵焼成後に目つしを行う。その方法としては油を塗り付けたり、焼成直後に葉の中に入れていぶしたり、あらかじめ食物を煮たりする。その流儀にはいくつかの方法がある。未使用の土器を使って一番最初に調理した食べ物はまずいとされて、その料理を家畜にあたえるという地域もある。

製作時に意図された本来の機能とは異なった用途に転用されることはしばしばあり、特に底部は容器として機能するため利用価値が高い。例えばアメリカインディアンのウィチヨルは土器の下半部を杓子、家畜用の水鉢、蠟燭作りの容器、紡錘車、他の土器の蓋などに使うという。

なぜ土器が壊れるのか調査をしたフォスターは壊れやすい条件として、土器自体が脆いこと、土器の使用条件や調理方法が物理的衝撃を与えるやすいものであること、家畜や子供が家の中にいること、土器の値段が安いことなどを挙げている。当然のことながらほとんど動かすことのない貯蔵器は壊れずに長期間使用されることになる。

土器の寿命は考古学研究者には大変興味深い事柄である。毎日使用する調理器や食器が最も寿命が短く、フィリピンのカリンガでは約2年、北カムルーンでは2年半というデータがある。図4に示したアマゾンのシビボ・コニボの例ではさらに短く、毎日使う食器は3、4ヶ月程度で壊れてしまう。そして水瓶や貯蔵器は数年の寿命を持つ。破損率は単に土器の耐久度によるのではなく、使用の方法によって異なるのでこの差は土器の質の差とは言えない。こうして破損した土器が漸ってやがて考古学資料となるのであるが、そこから求められる器種の比率は実際のある時点における器種の構成比とは異なるであろうことは容易に想像がつくであろう。残念ながら廃棄物の構成比と各家庭で保有する土器の構成比とを比較した研究はないが、理論的な考察はデイヴィッド

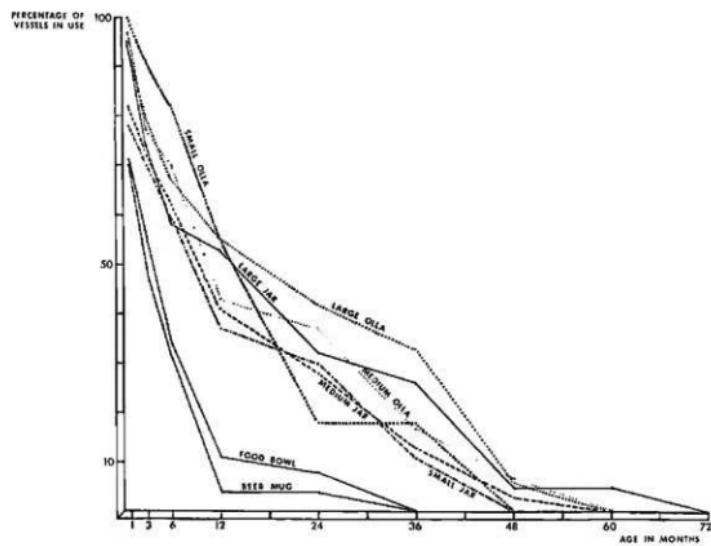


図4 アマゾン・シピボ・コニボにおける土器の寿命

ド、デボアが行っている (David 1972, DeBoer 1974)。根拠が示されていないので判断に迷うが、一応デイヴィッドは同じ器種構成が長期間継続したという前提での計算式を考案している。それは平均耐用年数毎にその器種の半数が入れ替わり、全体に加算されていくという考え方であると思われる。アフリカ、フラン西での1年、5年、25年、50年、100年経た時点での予測土器比率の試算が図5である。同じ式を使ってデボアはシピボ・コニボでの予想される経年変化を計算しており併せて図6に示した。デボアはさらに考古遺物での検証を行おうとして、一時期のまとまりである墓出土の遺物の器種構成比と生活址出土遺物の器種構成比とを比較しているが、遺物間にかなり年代差があると考えられるため説得力のある論考とはなっていない。

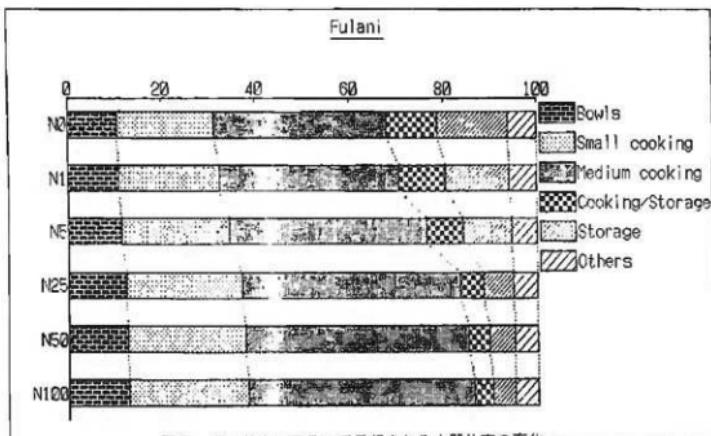


図5 アフリカ・フラニで予想される土器比率の変化

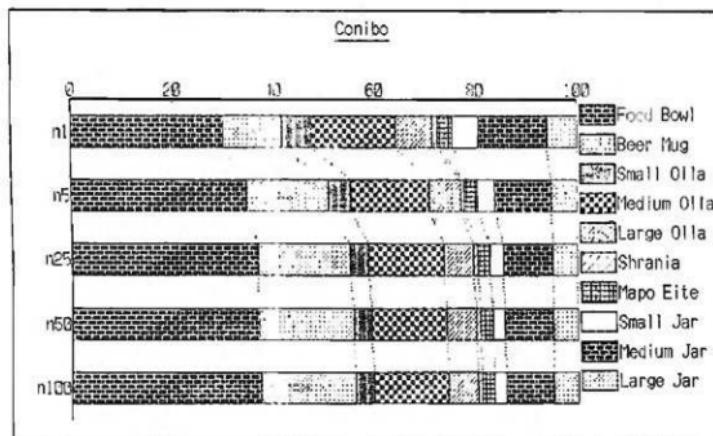


図6 シビボ・コニボで予想される経年の変化

## 4 土器の文化

### ・土器作りのタブー

タブーは必ずあるわけではなく、非常に厳しいところもまったく認められないところもある。台湾のヤミ族は前者であり、粘土採取から始まり、焼成にいたるまで非常に多くの禁忌があることが報告されている。例を挙げると櫛を用いることや木を削ることを禁ずる、芋の皮を剥いてから煮てはならない、ひび割れた皿に行ってはならない、散髪をしない、漁をしない、屋根を葺かないといったタブーがある。そのほか、世界各地で女性特有のタブーが報告されており、妊娠中や月経期間中の女性が土器作りに関与することを制限する例が多い。ただし土器作りに限って見られるのではなく、このような状態にある女性が避けなければならないことの一つとしての制限であると考えられる。

### ・特殊な用途の土器

祭器にはそれ自体が神聖な土器である場合と祭り用の調理を行う土器である場合とがある。後者は大人數の食事を作るためにかなり大型である。祭礼に使われる土器のアフリカの例を図7に示した。ナイジェリアでは年に一度土器作りの祭りを行う地域があるが、この時使われる祭礼用の土器の文様は祭司の指示によってつけられる。パプアニューギニアでも通常の土器作りは女性が行っても、祭祀に用いられる土器は男性が作る例があり興味深い。ここでは男性がより高いステータスを得る条件として土器作りに秀でることが要求される。

縄文時代後期以降の土器に精製土器と粗製土器と区別される別系統の土器が現れるようになり、それぞれの分布範囲が異なることが知られているが、もし從来考えられているように、精製土器が特別の用途に使われる土器であり、かつ婚姻によってその分布が広がるとするならば、よその地域から入ってきた女性が祭祀用の土器を変化させてしまうことになる。このような前提は再考の余地があるのではないだろうか。

祭器と日常器の区別は必ずしも厳密ではない例をマックレオドが述べている。すなわち何の変哲もない日常の器がある儀式に使われることによって、たちまち聖なるもの、手に触れてはならないものに変化してしまうのである (McLeod 1984)。

土器の楽器としては太鼓が各地で知られている。有孔跨付土器の用途として挙げられることのある鉢の口縁に皮を張る形態のものその他、ナイジェリアには壺形の土器の肩部に穴を開けた弥生時代の円窓付土器に似た太鼓がある。演奏法は肩部を脚で挟んで座り、口縁部を右手で叩き、肩部の孔を左の掌で開けたり塞いだりして音に変化をつける (Jeffreys 1940)。

### ・土器の文様

土器の文様には具象文から幾何学文まであるが、人間や動物を示す具象文のつけられる土器は一般に通常の用途に用いられるものではない。

文様の有無と土器の用途との関連としては北アメリカインディアンでは基本的に火にかけられる土器には文様をつけることを避けることが知られている (Plog 1980)。ただしこの地域では

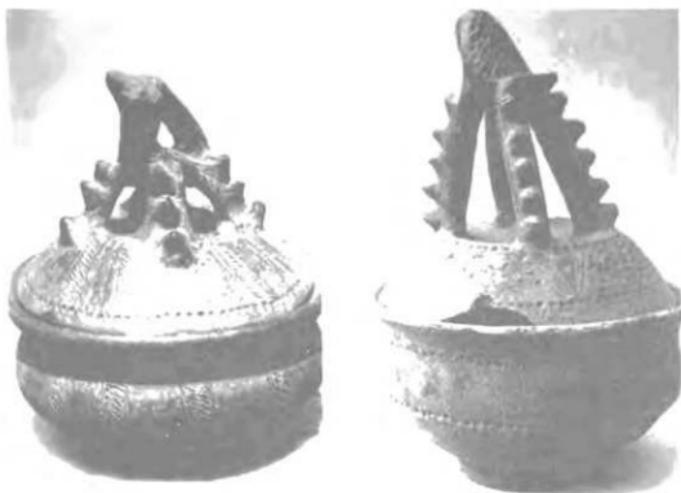


圖7

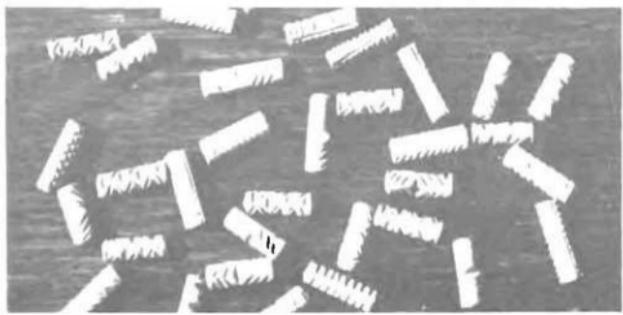
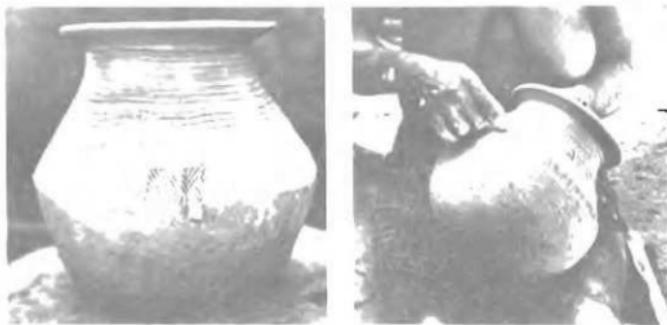


图 8

絵付けによる文様施文であるので刻文による場合とは異なり、一般化は出来ないと考えられる。なお繩文土器における朱彩の土器を考えてみると、例えば加曾利B式の場合、朱彩が浅鉢ないし鉢に集中し深鉢には見られないのは興味深い。

文様の意味についてはあまり資料がなく、むしろ意味はない回答する陶工の例も報告されている。何のために文様がつけられているのかはなかなか難しい問題である。普通考古学者は文様が集団を示し、他との区別のために文様が保持されるように考えることが多い。ところが土器の実際の使われかたを考えてみると、電気のない薄暗い屋内でススに汚れた状態で、一体文様は何の役にたっていたのだろうかと思わざるをえない。発掘される土器にも器面に厚く炭化物の付着したものや、元来の色調であったか確實ではないが、地が白色に近いため折角の文様が非常にわかりづらいものがある。他集団との区別といつても常に他集団の人間の目に触れるようなところには土器は置かれていなければならないはずである。このような観点からスターナーらは土器の文様は対他集団のためではなくむしろ対自集団、対使用者あるいはその地域の靈のためにあるのではないかという説を述べている (David et al. 1988, Sternier 1989)。すなわち文様があることは必要なのであるが、それがあるとわかっているだけで十分なのであり、いつも見えている必要はないというのである。

## 5 終わりに

民族学的調査では時間的変遷を追うことは苦手としている。過去の事柄を聞き取りすることはできても具体的に何年前のことなのかというところまでは詰めるのは難しいし、調査時に会うことのできた個人の知る範囲でしか確定することができない。その点で数世代の出来事をまとめて扱わざるをえないのが普通であり、かえって同時代のものはつかみにくい考古学とはデータの質は自ずから異なっている。しかしそれでも考古学的資料には現れない貴重な情報が数多く得られることには変わりなく、参考とすべき点が民族誌データにはたいへん多い。全世界に市場経済が浸透するにつれ、どの地域においても旧米の器具が金属製品や石油化学製品にとってかわられつつあり、急速に伝統的社会や生産体系が失われようとしている。もはや手遅れという声も聞かれるが、とにかくそれらの社会が死滅しないうちに調査が進められなければならないし、考古学に還元できるテーマを生み出していく必要がある。

(財団法人古代学協会研究員)

注 日本人による土器の民族誌の研究としては次のような文献がある。

- 青柳正治 1980 「ルソン島北部における土器づくり」『黒潮の民族・文化・言語』角川書店  
角林文雄 1978 「ニューギニア・マダン周辺の土器作りとその経済的機能の研究」民族学研究

- 坂井 隆 1984 「インドネシアにおける最近の上器作り調査例」群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要 1
- 清水潤三 1959 「カンボジアにおける上器作り部落とその技術」民族学研究 23-1・2
- 中村 浩 1984 「インドネシア・中部ジャワの土器作り」帝塚山考古学 4
- 量 博満 1973 「タイ国北部における土器作りについて」上智史学 18

またアメリカでエスノアーケオロジーを学んだ日本人研究者が書いたものとしては次がある。

西藤清秀 1984 「カリンガ土器のエスノアーケオロジー的考察」樋原考古学研究所論集 7

小林正史 1989 「先史時代土器の器種分類について」北越考古学 2

#### 文献

- Arnold D. E. 1985 "Ceramic Theory and Cultural Process", Cambridge Univ. Press
- Bunzel R. L. 1929 "The Pueblo Potter", Columbia Univ. Press
- David N. 1972 "On the Life Span of Pottery, Type Frequencies, and Archaeological Inference", American Antiquity 37
- David N. et al. 1988 "Why Pots are Decorated", Current Anthropology 29 (3)
- DeBoer W. R. 1974 "Ceramic Longevity and Archaeological Interpretation", American Antiquity 39-2
- DeBoer W. R. and D. W. Lathrap 1979 "The Making and Breaking of Shipibo-Conibo Ceramics" in "Ethnoarchaeology"
- Gould R. A. ed. 1978 "Explorations in Ethnoarchaeology", Univ. New Mexico Press
- Hodder I. 1982 "Present Past", Batsford
- Hodder I. et al. eds. 1981 "Pattern of the Past", Cambridge Univ. Press
- Jeffreys M. W. A. 1940 "A Musical Pot from Southern Nigeria", Man 215
- Kempton W. 1981 "The Folk Classification of Ceramics", Academic Press
- Kramer C. ed. 1979 "Ethnoarchaeology", Columbia Univ. Press
- Lathrap D. W. 1983 "Recent Shipibo-Conibo Ceramics and their Implications for Archaeological Interpretation", in "Structure and Cognition in Art"
- Longacre W. A. 1981 "Kalinga Pottery", in "Patterns of the Past"
- May P. and M. Tuckson 1982 "The Traditional Pottery of Papua New Guinea", Bay Books
- McLeod A. D. 1984 "Akan Teracotta", in "Earthenware in Asia and Africa"
- Nicklin K. 1979 "The Location of Pottery Manufacture", Man n.s. 14
- Ojo J. R. O. 1984 "Yoruba ritual pottery", in "Earthenware in Asia and Africa"
- Pictor J. ed. 1984 "Earthenware in Asia and Africa", School of Oriental and African Studies

- Plog S. 1980 "Stylistic Variations in Prehistoric Ceramics", Cambridge Univ. Press
- Simmonds D. 1984 "Pottery in Nigeria", in "Earthenware in Asia and Africa"
- Stanislawski M. B. 1978 "If Pots were Mortal", in "Explorations in Ethnoarchaeology"
- Sternier J. 1989 "Who is signalling whom?", Antiquity 63
- Waane S. 1977 "Pottery-making Traditions of the Ikombe Kisi, Mbeya region, Tanzania", Baessler-Archiv N. F. Band 20
- Washburn D. K. ed. 1983 "Structure and Cognition in Art", Cambridge Univ. Press

#### 表・図版解説

- 表1 土器作り習得開始年齢、習得に要した年数 (Waane 1977より)
- 表2 製作可能器種と製作希望器種 (Waane 1977より)
- 図1 陶工1人の文様バリエーション (シビボ・コニボ、Lathrap 1983より)
- 図2 年代差のある陶工の作品 (Lathrap 1983より)
- A : 70~80才陶工、B~D : Aの娘 (年長)、E・F : Aの娘 (年少)、G : B~Dの作者の娘、H : 10才、Gの娘、B~Dの養女
- 図3 一単語の示す器種の範囲のアンケート、同一人物、3ヶ月へだてた結果 (Kempton 1981より)
- 図4 土器寿命 (DeBoer他 1979より)
- 図5 フラニでの土器比率変化予測
- 図6 シビボ・コニボでの土器比率変化予測
- 図7 ナイジェリア、ヨルバの祭祀土器 (Earthenware in Asia and Africaより)
- 図8 参考 アフリカの土器の繩文と押型文 (Earthenware in Asia and Africaより)

本文は平成元年度千葉市立加曾利貝塚博物館考古学講座の講演内容を  
まとめていただいたものです。〔編集者〕